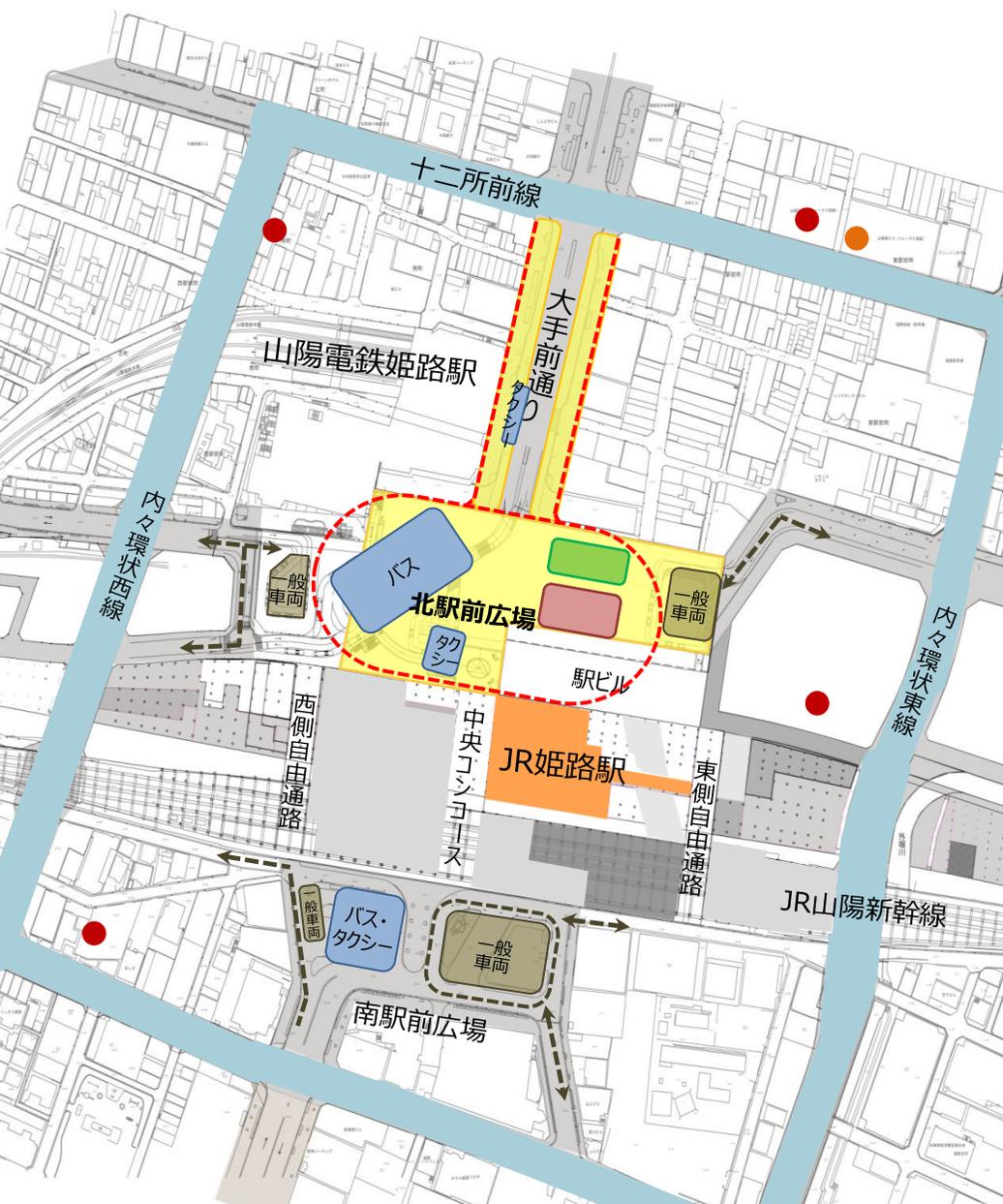


ヒロゲル 芝生とみどりのチカラ【参考事例】

国土交通省都市局
公園緑地・景観課

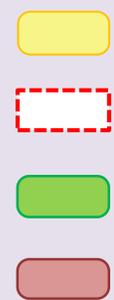
姫路市における取組①

「都市の多様性とイノベーションの創出に関する懇談会」
資料より引用



1. 都市空間リノベーション

- ・ 車道中心だった駅前をゆとりある歩行者空間に再整備
- ・ 駅前から大手前通りまでをトランジットモール化 (一般車両進入禁止)
※内々環状線 の整備効果
- ・ 駅前広場を芝生化し、イベント向け電源設備等を設置
- ・ 駅ビル地下階と地下街を結ぶ市所有土地にサンクンガーデン(段差のある広場空間)を整備



2. 官民のプラットフォーム

- ・ 駅前広場再整備は、自治体、交通事業者、権利関係者に、商工会議所、商店街連合会等を加え、専門家主導の一体の会議体でデザインコンセプトやレイアウトを検討

3. 民間投資の連動

- ・ 駅周辺におけるホテル、マンション建設が活発化
※地図上表示はH22以降開業、分譲
- ・ 商店街空き店舗への若者等による新規出店
- ・ 姫路城へのインバウンド来訪客等による域内消費



効果

駅周辺の商業地 地価公示価格：

120万円/m²(H30) ⇒ 150万円/m²(H31)

変動率：25%上昇 地方圏商業地で**全国7位**

H31地価公示 鑑定評価員のコメント等

姫路駅周辺では、駅前広場や歩道などが整備され利便性が向上し、姫路城を中心とした観光による賑わいの高まりもあいまって、店舗・ホテル等の需要が強く、地価が上昇している。

駅周辺の商業床面積：約83ha (H20) ⇒ 約85ha (H25)

姫路市における取組②

「都市の多様性とイノベーションの創出に関する懇談会」
資料より引用

駅前緑地とサンクンガーデン



東京都豊島区における取組①

「都市の多様性とイノベーションの創出に関する懇談会」
資料より引用

南池袋公園

- 池袋駅徒歩5分に立地、木々が鬱蒼とし治安の悪さから利用されない公園（区内で3番目に広い公園）



整備前の状況

【H21～H27】

- 東京電力の変電所が公園の地下に設置されることを契機として再整備を実施。

- 新庁舎建設にあわせた池袋副都心の回遊性と賑わいの創出に加え、防災拠点としての役割。

- 「南池袋公園をよくする会」を設置し、公園内のカフェからの寄附（売上額の0.5%）を活用したイベントの開催や芝生管理を実施。

南池袋公園をよくする会

地域住民/団体…町会、商店街、隣接地権者
学識経験者
(寺院)

行政、管理者…カフェ運営事業者、植栽維持管理
業者、豊島区



IKEBUKURO LIVING LOOP

エリマネ団体（グリーン大通りエリアマネジメント協議会）による賑わい創出の取組みの場としても活用

5.18. fri. 16:30-20:30
5.19. sat. 11:00-20:00
5.20. sun. 11:00-16:00
© 池袋グリーン大通り/南池袋公園

東京都豊島区における取組②

「都市の多様性とイノベーションの創出に関する懇談会」
資料より引用

南池袋公園



整備前
(H20.12)



整備後
(H30.5)



東京都豊島区における取組③

「都市の多様性とイノベーションの創出に関する懇談会」
資料より引用

南池袋公園



天王寺公園（てんしば）の取組（大阪市）

- 大阪市の天王寺公園では、施設の老朽化等で充分活用されていなかったエントランス部を、市との官民連携により再整備
- 事業者（近鉄不動産）が、カフェ、レストラン、こどもの遊び場、フットサルコート、ドッグラン、コンビニエンスストア、駐車場等の収益施設を設置するとともに、芝生広場（約7,000㎡）、園路等も事業者負担により整備
- 芝生広場を中心に、その周囲に公園との親和性を考慮した木造・低層の店舗を連続的に設置することで回遊性が向上し、周辺地域や国内外から多くの人々が訪れるものとなり、その効果が公園にとどまらず、周辺地域の活性化にもつながっている

整備前



整備後



（写真提供）近鉄不動産株式会社

丸の内仲通りの取組（東京都千代田区）

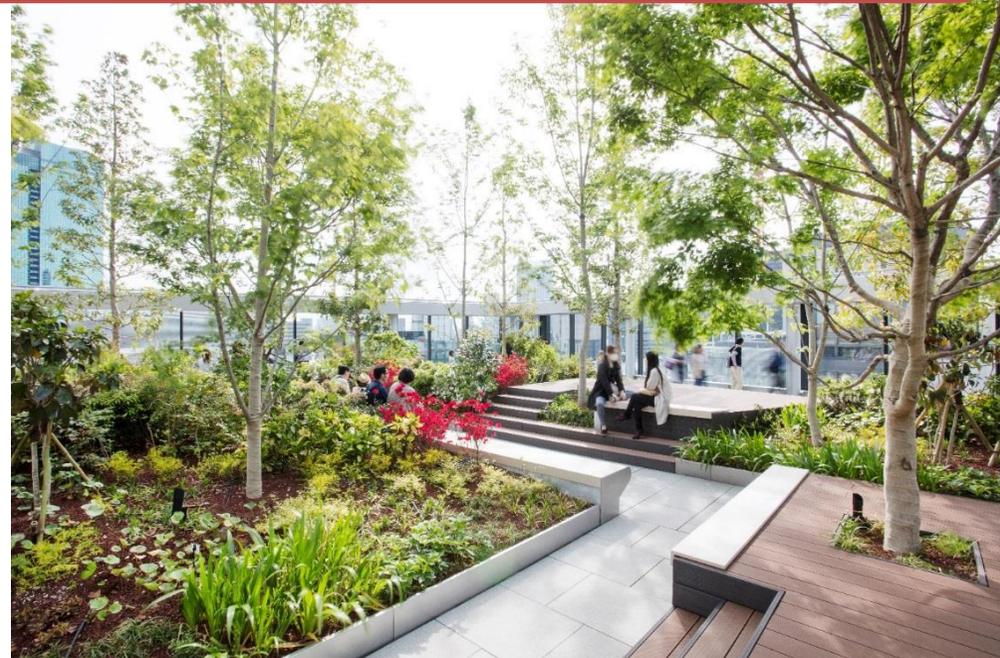
- 東京都千代田区の丸の内仲通りでは、5日間限定で車道1ブロックを芝生化
- ビジネスだけではなく、寛ぎ空間や心地良い空間も備えた地区の魅力を発信
- 日替わりでイベントも開催し、地区の賑わい創出にも寄与



（出典）大丸有エリアマネジメント協会提供資料に基づき国土交通省都市局作成

GINZA SIX「GINZA SIXガーデン」の取組 (東京都中央区)

- 屋上庭園は、「街のにぎわいを楽しむ西欧の広場文化」と「自然に親しむ近世江戸の庭園文化」の融合をコンセプト
- 中央北側には人々が集い、子どもが遊ぶことのできる芝生広場、中央南側には心地よい清涼感が感じられる水盤を設け、銀座を訪れた人々に憩いや交流の場を提供
- 都会の中で自然を身近に感じる環境を創出し、銀座エリアの価値や魅力の向上に寄与



(写真提供) 森ビル株式会社

虎ノ門ヒルズ「オーバル広場」の取組（東京都港区）

- 立体道路制度を活用した人工地盤上に創出された「虎ノ門ヒルズ」の芝生の公開空地
- 「わたしたちの場所をみんなで作ろう」というコンセプトのもと、オープンな空間に、年間を通じて、多数のコミュニティを巻き込んだ多様なコンテンツを展開
- 虎ノ門ヒルズワーカーや地域住民、来街者をつなぐハブとして機能することで、コミュニティにとってのサードプレイス（わたしたちの公園）を創り、持続的な虎ノ門エリアの地域活性化に寄与



東京ミッドタウン「芝生広場」の取組（東京都港区）

- 隣接する港区立檜町公園と合わせて、広大な緑地とオープンスペースを有する東京ミッドタウンは、「日本庭園」の概念を取り入れてデザイン
- この大きな緑のオープンスペースは、人々の心を癒し、活力を与えるだけでなく、様々なイベントや活動を通して、文化的要素が交わる場ともなっている
- 人々に憩いの場を提供するとともに、ヒートアイランド現象の緩和や都市の生態系維持にも貢献



(写真提供) 東京ミッドタウンマネジメント株式会社

品川シーズンテラス「イベント広場」の取組（東京都港区）

- 公共施設である水再生センターの再整備を契機に、既存の港区の公園と連坦させた人工地盤上の緑地で、都市の新しいかたちの環境社会資本「水と緑と風のエコインフラ」
- 3つの活動方針（グリーン、テクノロジー、オープンネス）に関連し、品川で働くこと・品川に住まうことが、もっとわくわく・楽しくなる・心地よくなる「品川スタイル」を発信
- 地域に開かれた日常使いの居場所になるようイベントを中心とした活動を行っている



(写真提供) 品川シーズンテラス総合管理事務所

恵比寿ガーデンプレイス「サッポロ広場」の取組（東京都渋谷区）

- サッポログループ本社棟前のリニューアルに際し、「都会の中にもありながら広々とした芝生で、ゆっくりと過ごし、気軽に参加・体験でき、お互いがコミュニケーションを図り、繋がりを感じられる場所」という活用イメージを持つ広場
- 近隣の人々と地域に開かれた「集う、憩う、つながる」場として、地域の小学校の校外学習や渋谷区実施のイベントを開催
- 来街者にとって、心地よい時間や空間を提供し、地域コミュニティの活性化の促進に寄与



(写真提供) サッポロ不動産開発株式会社

リタケの森の取組（愛知県名古屋市）

- 「文化と出会い、森に憩う。」をテーマに、名古屋駅近くの食器工場跡地に整備された緑地（緑地面積約2万2千m²）
- 2018年12月には、名古屋市から「市民緑地」の認定を受けている
- 名古屋市都心部の貴重な緑豊かな空間として広く市民に親しまれる場となっている



(写真出典) SEGESホームページ (<https://seges.jp/site/B1601.html>)

狛江第五小学校（東京都狛江市）

- 教育環境の一層の充実のため、東京都の学校芝生化政策の一環として校庭の約3分の1（約1000㎡）を芝生化
- 夏まつりでのスプリンクラー水遊び、「お琴とお抹茶をたのしむ会」等を実施し、交流の場として活用
- 芝生の活用と維持管理を通じて、地域と学校とのきずなが深まり、地域の力を取り込んだ学校の活性化に寄与



（写真提供） 狛江五小グリーンプロジェクト

ブライアント・パークの取組（US・ニューヨーク）

- ニューヨーク中心部にある面積3.9haの市立公園
- 1920年代には荒廃した公園となったが、ニューヨーク市と周辺のビルオーナーによってBPRC（ブライアント・パーク・リストラクション・コーポレーション）が設立され、公園の再生に取り組んだ
- 1992年に公園を改修、2012年春にオープンした結果、年間1,200万人が訪れる公園に生まれ変わった（参考：新・公民連携最前線 第8回 米・ブライアント・パークで成功した公園活性化とBIDによる運営のポイント <https://project.nikkeibp.co.jp/atclppp/PPP/032300072/020600009/> ）



二子玉川ライズと二子玉川公園の取組例（東京都世田谷区）

- 民間再開発事業と都市公園整備の連携により新たな投資や人材を呼び込む魅力ある都市空間を形成
 - ・ 民間再開開発事業において、屋上緑化、みどりの広場、遊歩道を整備
 - ・ 水害対策にも資する都市公園を整備し、周辺の生態系ネットワークにも配慮した取組を実施

民間都市開発（二子玉川ライズ）



ニューヨーク市 ハイラインの事例（US・ニューヨーク）

- ニューヨーク市ミッドタウン西部の鉄道が1980年代に廃線。廃線跡地は放置され周辺地域の治安が悪化
- 1990年代に市長が鉄道高架橋の取り壊し政策を打ち出したが、非営利組織フレンズ・オブ・ハイラインが設立され保存運動が活発化。市は方針を転換し高架橋の構造を活かして鉄道敷に公園緑地を整備
- ハイラインの整備に合わせた周辺の容積率緩和により不動産投資が活性化
- 非営利組織フレンズ・オブ・ハイラインが管理運営し、多くの市民ボランティアが活動に参加

上空から見たハイライン



整備後



整備前



整備後